

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

平成28年度

学校名	筑波大学附属 駒場中・高等学校
-----	--------------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-3	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の状況	中1と高1では体験的な学習として、ケルネル田圃での稲作実習を実施した。フィールドワークを中心とした実践的な学習として、中2では「東京地域研究」、中3では「東北地域研究」（3泊4日）、高2では「関西地域研究」（4泊5日）を実施した。高3では年間を通して「総合発表」に取組み、文化祭での成果を発表する。主体的な探究学習として、中3では「テーマ学習」、高2では「課題研究（ゼミナール形式）」、高3では「課題研究（個別研究）」を実施した。
3-2-1	自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導の状況	三大大行事（音楽祭・体育祭・文化祭）を中心に、異学年（中1～高3）が委員会を形成し、互いに共生・協働する学校行事を実施した。校外学習（地域研究等）、三大大行事への学級・HR活動、弁論大会等を実施し、リーダーシップとフォロアシップの涵養に努めた。以上を生徒部が中心となって企画・運営するとともに、プロジェクトを立ち上げて成果を検証し今後の課題を提起した。
6-1-1	特別支援学校や特別支援学級と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習の状況	インクルーシブ教育の実践として、黒姫共同学習への積極的参加を行い、効果を検証し発信した。また課題研究の一つである「ともに生きる」では、筑波大学附属の特別支援学校の協力のもと、さまざまな障がいを持つ方々や教員との交流を通して、学習を進めていった。
7-1-2	校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、学校の明確な運営・責任体制の整備の状況	新たな定員（研究員）の確保、分掌の係の新設と再編、教務補佐員の活用、外部業者への委託、卒業生の活用を念頭に、持続可能な組織的な取り組みを図っている。
12-1-4	大学、附属学校教育局と連携した多様な学習内容・学習形態などに対応した整備の状況	校内環境改善マップを作成し、生徒が健康で安全な学校生活を送るための教育環境の改善に努めた。70周年募金活動を行い、本校の教育環境改善に努める準備を進めた。
12-1-5	大学、附属学校教育局と連携した学校教育の情報化の状況	専門性を有する司書を継続して雇用し、学術コンテンツ・学習リソースが活用可能な図書メディアセンターの実現に努めた。ICI環境を整備し、学習や学級・HR活動の充実を図った。具体的にはwifi環境の整備やタブレットなどの導入を進めた。
14-1-3	先導的教育研究	SSH研究開発事業では筑波大学と連携し、筑波大研究室訪問（中3・高2）、特別講演・授業・実験、課題研究を企画し実施した。それらの成果を、全国のSSH生徒研究発表会や台中第一高級中学での生徒研究発表等を通して国内外に積極的に発信した。以上の学習を高2・3の教育課程に「理科課題研究」、学校設定科目「課題研究」と位置づけ、発展させた。
14-1-4	教員養成・教師教育	教育実習を年2回（3週間ずつ）実施するとともに、実習後に再度教職現場を参観する教育実践演習を合わせて実施した。リメディアル教育として、自由科目の数学および生物分野の授業を担当した。教員免許状更新講習の選択18時間の会場として企画・運営を行い、講座の担当や「附属学校実践演習」を実施した。
14-1-5	国際交流・国際貢献	科学分野の研究交流として台湾台中第一高級中学、文化交流として韓国釜山国際高校との相互交流や研究発表会を実施した。他SSH校が企画した国際交流プログラムにも積極的に参加した。また、筑波大学教員研修留学生との交流を継続した。イングリッシュ・ルームを活用し、外国人研究者や大学院生による「英語で学ぶ・交流する」を通して、実践的な会話能力を育成した。
14-1-6	社会貢献	「筑駒アカデメイア」事業として、本校の人材（生徒・教員・卒業生・保護者）を活用し、地域（世田谷区や目黒区）住民を対象にした公開講演会や公開講座を実施した。教員と生徒が一体となって、地域の小学校や茨城県大子町の小学校などへの出前授業を積極的に実施した。教員による研究授業・実践講習会や生徒の研究発表会を企画し、日頃の教育活動やSSHで得た成果や恩恵を積極的に社会に発信した。